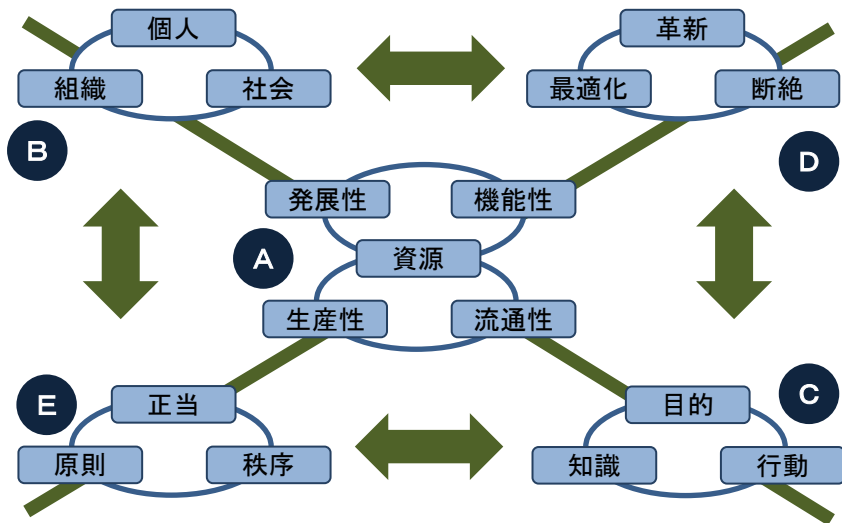


## 思考 & 行動の最適化を図る



AからEの5つ(6つ)の輪があり、17単語があげられている。仕事を考え、実行する時の大切な17単語である。できれば17単語を常に念頭に置き、仕事を考え、仕事を終えたときに成果を検討する。

Aの5単語は、直接仕事に関わる。マネジメントの重要な要素である。

資源とは何かを特定する。自身が、自社が持っている資源を捉え、資源を増やす。周辺の4単語、発展性、機能性、生産性、流通性は組織内はもちろん、社会での状態を想定しながらの言動を必然とする。社内で如何に発揮したとしても、社外で機能しなければならない。それぞれの単語の意味と、自社、自身にとっての意味の解を出さねばならない。これらは、社会・市場の変化に影響されていることを忘れてはならない。

Aを中心にして、BからCへと進み、社会でのDを果たす。

Aを中心にして、Eを忘れず、Dへと進む。

⇔で示されている輪は互いに影響する。B、D、C、Eで互いにバランスを取るのが完全へと進みやすいはずである。

サンプルとしての意味をあげた。自身の職種、業種にとっての意味を確立しておこう。

●資源・・・自然資源ではなく、組織に内在している資源である。できれば無限に発展でき、生産できる資源をとらえるのが良い。市場への資源の投入ほど、社会を刺激するモノはない。

●発展性・・・自社の発展性ではなく、社会の発展性との関連を検討する。社会を刺激する要素を外してはならない。

●機能性・・・社会での機能である。自社が社会で如何なる機能を果たせるのかを徹底して検討する。その解が最適であれば、確実に組織は発展する。

●生産性・・・開発、計画、諸々の材料の購入から始まって、市場に投入される。顧客が入手して、顧客の活用によって効果が発揮される。ここまでを含めて生産性とする。

●流通性・・・商品の流通、情報の流通があり、社内での流通、社外からの流通がある。知識、技術の社内流通がある。流通ほど変化の激しいモノはない。

●個人・・・人材の能力、意識、価値観、個人の生活感、目的意識などを含めて個人とする。個人が組織にあって、如何なる役割を果たすか。社会との関係性が見出されれば、さらに個人が発揮される。

●組織・・・組織し、組織の特異をもって事業を行う。人材の能力を何らかの形に転換して、社会に提供する。組織が自らの特異を見失ったとき、市場のリーダーシップを失う。組織の特異は何か、機能を発揮するために必要となるモノは何かを問う。

●社会・・・経済社会、知識社会、機能社会、情報社会と現在は言われている。社会が如何なる形で機能しているか、社会が持つ要素を知る必要がある。そこに、人と組織が成長する機会がある。

●目的・・・誤った目的は成果を産み出さない。目的の変更を余儀なくされたときも、目的の統一性と意味を失うようでは、目的とはならない。目的を失うときは目的を達成して事業を終えるときである。

●知識・・・知識は道具である。行動の為の道具であり、成果を作り出す道具である。如何なる知識を如何なるところに活用できるのかを知る必要がある。自社は如何なる知識群を転換して、機能させているかを知らねばならない。

●行動・・・活動に置き換えられる。古い言い方ではあるが、目的定立的行動が当てはまりやすい。目的に向けて、持っている材料を最適に活用した行動である。

●革新・・・革新に向かって活動し続けて市場でリーダーシップが取れる。変化を産み出そうとして社会が発展し、自組織も発展する。

●最適化・・・維持であっても、革新であっても、社会に対して最も適した形に持っていく。最適化を目指して、革新にもつながる可能性が出てくる。

●断絶・・・創造的破壊ではなく、現象として終わってしまう。ほかの影響で断絶する場合、目的が完全に達成されたときにも起こる。

●正当・・・音読みで同じになる正統がある。習慣、文化、治世による正統ではない。真理による正当である。

●原則・・・変わらざるもの、時代が経過しても変わらざるものである。普遍的なモノを見出し、これを基準にした場合は、問題発生が確立が激減する。変化があった場合でも、原則から外れていなければ適応できる。

●秩序・・・正と負が常に存在する。異質なモノが混在する。それらのバランスを図り秩序がある。秩序を無視しトを進めるのは難しい。